

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000044		
法人名	社会福祉法人寿宝会		
事業所名	グループホーム喜寿苑 Aユニット		
所在地	愛知県豊橋市前芝町字加藤381-2		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果申付受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所 株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26番地 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成23年11月7日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は純和風の外観であり、両フロアからは中庭で栽培している菜園や花を眺めることができ、心を癒してくれます。施設のすぐ近くには川が流れており、景色も良く散歩にも最適です。利用者様にはそれぞれ思い思いに過ごして頂くことを基本とし、職員は利用者様一人ひとりの個性を引き出しながら、さり気ない介助、声かけを心掛けています。利用者様にとって「第二の家」と思ってもらえるような温かい施設を目指しております。認知症に捉われず、いつまでも「自分」というものを持ち続けて頂けるよう、今出来ている事にしっかりと目を向けるようし自信、活気に繋がられるよう支援しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の中庭に菜園を設け利用者の経験を活かした野菜作りを通じたケアを実践するなど、その人の人生、経験、過去を理解することに慎重に配慮している。半年に1度、家族にアンケートを実施して積極的に要望や意見を取り入れる努力をしている。母体法人を活用して多様な利用の要望に対応している。開所して3年が経ち地域との交流も盛んになり、近隣の保育園や時期によっては相撲部屋などと交流や慰問が恒例となっており利用者の楽しみとなっている。「思いやり」という素直な理念を掲げ利用者と同様に職員も穏やかに過ごしている姿が印象的な事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の理念「思いやり」を掲げ、常に職員全員が目が届く場所に掲示し、意識を持って支援していけるよう心掛けている。	「思いやり」というシンプルな理念を掲げ、全職員が利用者、家族、地域に対しても理念を意識して接している。新人の教育時にも徹底しており、ケアや介護計画にも反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設している特別養護老人ホームと合同で毎年7月に夏祭りを開催し、地域の方の参加も多数ある。お相撲さんの慰問などもあり、地域の保育園児との交流会も開催している。	近隣の保育園への訪問や慰問だけではなく、保育園の通学路に利用者や職員が立ち登下校時の交通安全に貢献するなど交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽に立ち寄れる環境を整えており、地域の方からの質問や相談を受け入れる体制を整えている。職員も積極的に研修や勉強会に参加するようにし知識を高めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、活動報告を行い、その中で参加者から意見などをもらい、施設サービスの向上に努めている。また地域の方との関わりが積極的に行えるよう地域交流に関しての意見交換も行っている。	利用者状況等の報告をはじめ、緊急時や災害時の地域との連携や事業所の役割について検討している。施設見学や認知症の研修会を開催して地域住人の方に理解と協力を求める場としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当窓口へ出向いたり、担当者の訪問時に事業者のサービス内容、取り組みを伝え、助言を頂いている。	ホーム長が市の担当窓口と密に連絡をとり、また市の介護相談員の訪問を受け助言を頂くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の行動を制止したり職員の都合で抑制したりしないように職員同士確認し合いながら支援を行っている。安全面での問題が発生してしまった場合は職員間で話し合い、極力拘束にならないよう利用者様の立場に立って支援方法を検討している。	交通量の多い道路に面して立地した施設のため安全を考慮して玄関の施錠は行っているが、入所時に説明し理解を得ている。職員は常に拘束について配慮し法人全体で勉強会を毎年実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で常に虐待行為の兆候を見逃さないように意識し合うようにし、職員同士助け合いながらストレスを溜めないように心掛けている。困った時はアドバイスし合いながら皆がレベルアップ出来るよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度についての研修に参加し、施設内でも勉強会を開催し、職員全員で知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事業所の方針、ケアに関する取り組みなどを説明した上でご家族様、利用者様の希望、要望を聞き入れ、納得を頂いている。また退居後の対応なども説明し安心して頂けるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付担当者が明記されている。玄関口に意見ボックスを設置し、ご家族様からの意見などを頂く機会を作っている。また半年に一度サービスに関する意見、調査も行っている。	法人として半年に一度、利用者や家族にサービスに関するアンケートを実施しサービスの向上に努めている。また家族が面会に来たときは要望や意見を聞いている。また、現状を伝え今後のケアについて話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議、責任者会議を開催し、職員からの意見、要望を聞き入れながらコミュニケーションを図っている。	会議以外でも施設長が気軽に職員の意見を聴取する雰囲気がつくられている。会議に出席できない職員にも議事録を必ず回覧し情報の共有を徹底している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のメンタル面、体調面に気を配り、悩みや疑問の解決に取り組んでいる。年2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で開催される研修には積極的に参加して頂き、知識の向上に努めている。研修後は、復命書を提出して頂き、全職員にも研修内容の報告、勉強会を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部への研修に参加し、他事業所の方との交流、意見交換を行い、日頃のケアに活かしている。事業所内の勉強会の中でも他事業所からの意見について意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、生活状況、身体状況の把握をし、利用者様の求めている事やご家族様の要望なども理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が求めている事、負担を感じている事などを聞き入れ、理解した上で事業所としての対応方法を伝えるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様の困っている事、不安い感じている事を見極め、出来ることはすぐに実行するよう努めている。すぐに出来ない事に関しては、方策を考えながら今後の対応策として案を出すようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が辿ってきた生活リズムや環境を大切にしながら得意な事、やる気のある事を把握し物事に対する参加意欲を持って頂けるようにしている。また職員も「教えて頂く。」という気持ちを頭に入れ接するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の中の出来事は面会時や毎月送っている手紙の中で報告したり、支援の方法について相談するようにしている。ご家族様と常に連携が図れるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの希望に応じて外出出来るよう日頃の会話の中で思いを聞き出すようにしている。社会性を失わないよう近所のスーパーへ出掛けたりと支援している。	利用者が必ず外出する機会を設けて馴染みの場所や人との関係が途切れないよう努めている。利用者一人ひとりの楽しみや人間関係を把握することによって、より良い関係の継続を維持している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性を考慮し、食事の席を決めたり、外出時には、気の合う方同士で出かけられるよう支援している。利用者様同士が関わり合ったり、共に支え合えるような環境作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も気軽に相談などを受け入れる体制を整えている。相談があった際は、丁寧に話を聞き、ご家族様の不安や心配事の解消に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との日常的な会話を通じてどのように暮らしていきたいのか希望や思いを把握するように努めている。会話が難しい方に対しては、経歴など考慮し利用者様の視点で検討している。	入所前に面接時に利用者の生きてきた時代や職業など情報を収集している。担当制を設けているが利用者の現状については職員全員で共有し、利用者一人ひとりの理解に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との交流の中で意向を聞き出したり、ご家族様の面会時に情報収集をするなどして本人にとって暮らしやすい環境を実現出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一日の暮らしをしっかりと観察し、一人ひとりのその時に持ち得る力、心身状態を把握し、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様には日頃の生活の中での希望や要望を聞き入れ、ケアに反映させるようにしている。アセスメントを含め、カンファレンスを定期的に行い介護計画を作成している。	定期的にモニタリング、介護計画の見直しを行っている。見直しの時には、事前に家族に要望を確認し介護計画に反映させている。計画作成担当者とチームリーダーを兼務しているため、現場の意見を反映しやすい体制となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者様の状態把握など日々介護記録に記載し、職員間で情報共有、今後の対策について意見交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の状態に応じて、通院、外出など必要な支援を行っている。それによりメリハリのある生活リズムが実現出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し、地域の民生委員、介護相談員、包括支援センターの職員と意見交換を行い、地域のイベントへ参加させて頂く機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様が希望されるかかりつけ医との連携を図り、柔軟な対応を行っている。受診は職員が同行し状態報告を的確に行うようにしている。緊急時はご家族様の協力を得ている。	入居前のかかりつけ医との関係が継続できるように配慮している。緊急時や受診が必要となった場合は、事前に家族に連絡し結果を必ず報告している。月2回協力医の往診があり、いつでも相談できる関係が保たれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が介護職員と協力し合いながら状態の変化、健康管理に努め、必要に応じた支援を行うようにしている。月2回の主治医往診時にも状態報告を行い、助言を頂きながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医と情報交換を行いながら指示を仰いでいる。入院中は、頻繁に介護職員、看護職員がお見舞いに窺い、回復状況の把握をし早期退院に努めている。同時に気持ちのケアも行うよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービスの利用の際、終末期ケアに関しての要望を伺い、ご家族様の思いに添った対応を行っている。終末期、重度化になった際にも再度、主治医、ご家族様と相談しながら意向に沿った対応を行うよう努めている。	入居時に、終末期、重度化した場合の対応について説明し、同意を得ている。家族に対して細かく情報提供を行い、その都度意向を確認しながら対応している。看取りに対して、法人内での勉強会を行い、職員への意識づけが図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員による応急処置の勉強会を行ったり、消防職員による救命講習の研修を実施したりと職員の意識向上を図っている。緊急時マニュアルも作成し、全職員が目に出る場所へ設置し、的確な対応が行えるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の職員、防火管理者立会いの下、年2回避難訓練を実施している。その都度、消防署職員から助言を頂き、全職員にて反省会を行うようにし対応策の改善に努めている。	ホーム内の防災設備が整っており、今年9月には夜間を想定した避難訓練を実施した。実際に利用者を誘導する事で、避難時の注意点を確認する事ができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に敬う気持ちを持って接するよう心がけ、物事を押し付けたり、強制することは行わず、自分の意思で行動を起こせるような言葉かけを大切にしている。また言葉づかいチェック表にて全職員が自分自身を見直す機会を設けている。	言葉づかいチェック表を作り、職員が利用者に対しての日々の声掛けを振り返る機会としている。利用者の呼び方、言葉かけなど自然な形で対応を常に心がけている。利用者の声に常に耳を傾け、それぞれの思いを把握するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の力量に合わせて、どのように伝えることで理解を得られるのかを考えた声かけを重視し自分自身で選ぶ、決断することの喜びを感じて頂けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムを決めず、起床から就寝までの時間を一人ひとりのペースに沿って行って頂くようにしている。日頃の関わりの中でも本人の希望、要望を聞き入れながら生活リズムの改善に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様から以前から興味を持たれていたことなどの情報を得ながら本人にとっての楽しみを大切に考えている。自己決定の困難な方には選択を与えながらの対応を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週月曜日、金曜日の昼食は施設にて作るようにし、利用者様の参加を促しながら協力し合う楽しさ、今まで培ってきた技量を活かして頂く機会を作っている。食事をすることも職員が間に入り、利用者様同士の関係性を保てるよう努めている。	日々の生活の中で、食べる楽しみを感じてもらえるように企画を練っている。利用者と一緒に調理をしたり、おやつを作ったりする機会を設けている。食堂での席を決めず、自由に移動できるようにし、同じテーブルで職員も食事をする事で、楽しいひと時を過ごせるように配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は毎日記録に残し、職員が情報交換を行っている。嚥下状態にも注意しながら観察し、状態に応じて管理栄養士と相談しながら食事形態の工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うように促し、一人ひとりの力量に合わせた支援を行っている。職員へも口腔ケアの重要性を理解して頂けるよう勉強会を開催したり、常日頃から伝えていくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムの把握を行うとともに排泄チェック表に水分摂取量も記載し水分摂取量との関連性も考えながら対応している。尿意、便意の困難な方には行動を観察しながら排泄案内を行っている。	トイレ入り口にのれんを取り付け、食堂からトイレ内が見えにくいように配慮されている。ポータブルトイレの用意や、利用者それぞれの習慣に合わせたトイレ誘導により、おむつの使用者を減らす取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を排泄チェック表に記録し便秘傾向が見られる方には、乳製品などの提供にて便秘防止に努めている。日々の運動にも注意しながらラジオ体操、近隣への散歩などにて運動量を増やしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は利用者様の希望に合わせて行っており、無理に入浴を勧めたりはしないよう努めている。入浴拒否が強い方もおり、同姓介助での対応、気の合う利用者様と一緒に入る機会などを作り、羞恥心にも配慮している。	重度化によりホームでの入浴が難しい方には、隣接する特養の機械浴での対応を行っている。ホームが平屋で、行き来が容易であることから、ユニット以外の浴室を利用できるなど、柔軟な対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの様子を観て必要と思われる時や希望のある時は休息して頂くようにしている。安心して眠れるよう服装や室温調整など考えたり、温かい飲み物を提供するなど安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬の説明書、注意事項をケースファイルに保管し、薬の重要性を全職員が認識出来るようにしている。服薬時は、飲み終えるまで必ず見守りを行い、誤薬の危険性に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や嗜好品などを把握し、希望に沿って個別支援を行っている。また残された能力、技量を活かして頂けるよう家事への参加を働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気軽に近隣へ散歩に出掛けられるよう声かけにて支援を行ったり、行事の中でも季節に合った行事内容を企画するなど利用者様に四季を感じて頂けるよう努めている。また行事を終えた後は、写真などを観ながら思い出話をしたりと次に繋がるよう対応している。	利用者が楽しめる時間を作るため、積極的に外出の機会を設けている。日常的な近所のスーパーへの買い物や、花見や弁当を持参しての水族館、動物園への遠足など、季節感のある外出を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様、ご家族様の意向に合わせて事業所管理の方もいる。本人の意向も大切に考え、ご家族様と相談の下、自己管理されている方もいる。買い物での支払いなど一人ひとりの力量に合わせた対応も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて親しい方との電話で話したり、ご家族様へ手紙を書いて頂く機会を作ったりと大切な方との関係が途切れてしまわないよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は気持ちが落ち着くように自然光を取り入れたり、花などを飾り温かみのある空間を作るようにしている。また玄関を中心に四季を感じて頂けるような飾り付けを行うようにし目で見て感じて頂けるよう工夫をしている。	家庭菜園のスペースがあり、農作業に馴染みの人は楽しい活動となっている。野菜の収穫時の写真や、行事の写真が飾られ、季節を感じる紅葉の飾りが写真を引き立てている。冬場には畳のスペースにこたつがセットされ、利用者の憩いの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファが設置されていたり畳の空間があるなど思い思いの場所で過ごして頂けるようにしている。孤立してしまわれる利用者様には、その方にとっての落ち着きが持てる場所を見つけられるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、タンス、思い出の写真など本人にとっての馴染みな物を持ち込まれており、その時々で利用者様の要望を聞き入れ、ご家族様と相談しながら居心地の良い空間を作っている。	ベッド、エアコン以外は、馴染みの物を持ってきてもらい、居室が落ち着ける空間となるようにしている。家族と相談しながら、より快適な生活空間となるよう、柔軟に対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、利用者様の身体状況に合わせて安全に生活して頂ける環境を整えている。生活して頂く中で不具合が生じると感じた際は、その都度職員同士で話し合いながら環境改善に取り組んでいる。		